

# 岐阜県嚥下障害研究会

## モグモグ通信

### No. 14 (2009. 7 発行)

11月22日の  
学術講演会  
へ、たくさん  
のご参加を  
お待ちしております  
ま〜す!



発行所:岐阜県嚥下障害研究会  
事務局:木沢記念病院 ST室

## 歯科衛生士会の活動について



NPO 法人  
岐阜県歯科衛生士会  
会長 神戸 雅子

岐阜県嚥下障害研究会会報「もぐもぐ通信」の巻頭に岐阜県歯科衛生士会の紹介をさせていただくこととなり厚くお礼申し上げます。

昭和41年、会員数17名で始まった岐阜県歯科衛生士会も、早いもので43年の月日が流れ、現在は、会員数は430名ほどになりました。平成15年には、特定非営利活動法人として認証を受け、会員との連携のもとに「人々の生涯を通じた歯・口の健康保持増進を支援し、歯科衛生士の倫理の高揚と資質の向上に努め、県民の保健・医療・福祉の向上に寄与する」ことを目的として活動しています。歯科衛生士会では、会員が地域で活躍できるように、県下を岐阜市、西濃、東濃、中濃、飛騨と5支部に分けており、支部ごとに地域に密着し歯科医師会などと連携を図り、乳幼児から高齢者までの歯科保健教育の実施や健康まつり等のイベントに積極的に参加しています。創立から今日にいたる歯科保健医療をとりまく環境は、大きく変化しており、それに伴い行政及び各団体からの委託事業も年々、増大しています。

近年、口腔ケアが重要視されてきた中で、本会は平成17年度から「口腔ケア歯科衛生士養成講座」を開講し、口腔ケアの専門家として地域で活躍できる歯科衛生士づくりを目指しこれまでに約150名の会員を養成してきました。

歯科衛生士の行う専門的口腔ケアには、口腔内の清掃を中心とした器質的口腔ケアと摂食・嚥下

にかかわる機能的口腔ケアがありますが、特に摂食・嚥下にかかわる機能的口腔ケアに関しては、十分な知識や技術が習得されていないのが現状です。その研修の場として、岐阜県嚥下障害研究会は、貴重な会で多くの会員がスキルアップさせていただいています。

岐阜県嚥下障害研究会で、年1回行われている学術講演会においては、連続して「口腔ケア体験コーナー」という企画をいただき、歯科衛生士会の各支部の会員が積極的に参加できたことなど、本当に感謝しております。

平成22年からすべての歯科衛生士の養成機関が二年制から三年制に移行し、現在は、4年制大学や大学院課程の教育も行われています。そのような中で、卒業後の継続的な資質向上のために、これからも歯科衛生士会は、時代のニーズに即した学習する場を提供していかなければならないと考えています。

また、超高齢社会を迎え、口腔機能の向上を実践する介護予防事業、訪問歯科診療に伴う専門的口腔ケアの取り組みなどの遂行に必須の他職種連携によるチーム医療の一員として岐阜県嚥下障害研究会、岐阜県歯科衛生士会、ともに連携をとりながら、切磋琢磨し、地域に貢献できる会にしていきたいと考えています。



## 成人勉強会 レポート

### 人差し指のマジック

朝日大学歯科衛生士専門学校

歯科衛生士 中嶋さつき

平成20年度第2回成人勉強会は、9月の急性期に引き続いて「回復期、慢性期における口腔ケア」についての内容でした。

谷江先生の講義では、誤嚥性肺炎と義歯装着の必要性について興味深く講演されました。

誤嚥性肺炎の発症要因の大部分を占める起因菌は口腔内常在菌です。歯や義歯の清掃不十分によって増殖される歯周病菌などです。この誤嚥性肺炎はとくに高齢者では発症に至るまで明確な所見は見られず(普段より体がだるい、少し元気がない、食が進まない、高熱あるなどの症状があるわけではないので)、見落としやすいのですが、毎日の状態をよく観察していないと気づいた時には重篤になっていることが多いそうです。

また、日常生活の自立度と嚥下機能には相関関係があり、「咀嚼あるいは嚥下ができる人は生活自立度、

すなわち要介護度も低い。ところが、歯の数と介護度とは相関性がない。」といったデータがでています。つまり上下の歯が咬み合っていることが大切なのです。臼歯(奥歯)を喪失すると咬み合わせが定まらず嚥下時の喉頭挙上が困難になるので義歯を装着することが大切になってくるのです。

歯科関係者が依頼を受けて訪問するともっと早く連絡してくれればといったケースが後を絶たないので口腔内の異常を発見する留意する点について栗木先生が講義・実習をしてくださいました。

口の中は暗くて狭いので、左人差し指の第二関節まで口の中に入れ、頬粘膜を排除します。口角(唇)を引っ張るのではなく、頬の奥内側を広げるようにすると要介護者の痛みもなく、介護者も見やすくなります。気をつけて観察するところは歯の歯肉に近い所です。ここには汚れが溜まりやすく虫歯や歯周病の原因になりやすいのでしっかり頬粘膜を排除して観察することが大切です。

その他にも、安全に行える口腔ケアの方法や楽しく行える訓練に使用するグッズを紹介いただきました。有意義な講義をありがとうございました。

(平成21年1月18日開催、70名参加)

講師：谷江勇一氏(岐阜県歯科医師会 歯科医師)

栗木みゆき氏(多治見市口腔保健協議会

歯科衛生士)



### うれしい報告!

各務原市福祉の里 たんぽぽ  
作業療法士 小川 由美子

先日、3日間にわたって行われた「第6回小児摂食指導講習会」は、内容が濃くて、盛りだくさんで、本当に充実した講習会でした。

講習会では、講義、実技、デモとも時間が足りない

くらいで、たくさんのお話を学ぶ機会となり、大満足です。

その中でも一番、印象に残ったことは、関特別支援学校の先生が持ってこられたケース検討のことです。担任の先生が実際に学校の給食の様子をビデオで撮ってこられたものを、山川先生が細かく評価、分析され、それに対する援助方法を提案されていました。それまでの講義や実技やデモなどの内容を踏まえて話されていたので、いろいろなことが少しずつ繋がって、とてもわかりやすく聞くことができました。山川先生が講習会の3日目に「みなさんにうれしい報告があります!」と笑顔で言われました。10月にあった2日間の講習会後の3か月間に山川先生と担任の先生がやりとりされていて、最終日にビデオを見せていただいたときは、驚きました。お子さ

んの様子があまりにも変わっていて・・・、すごい！のひと言です。姿勢が安定したことで、気持ちも安定して、体が向かいやすくなり、担任の先生が山川先生からのアドバイスを受けながら試行錯誤されている様子がよく伝わってきました。なんととってもお子さんと担任の先生とのノンバーバルなやりとりがスムーズになって、笑顔がいっぱいで、ビデオを見ているこちらにも笑顔になりました。

この講習会に参加して、“摂食”での関わりにおいて、“食べる”ということを援助するだけでなく、“コミュニケーション”に対して働きかけるチャンスがあることをあらためて認識できました。次の日から実践してみても悩む毎日ですが、療育や作業療法の場面にも活かせることがたくさんあります。

今回、山川先生の熱い思いにパワーをたくさんいただきました。本当に楽しい講習会でした。このような機会をいただけたことに感謝しています。ありがとうございました。

(平成20年10月11、12日、21年1月24日  
59名参加。講師：山川眞千子氏(日本ボバース研究会 言語聴覚士)、山川友康氏(神戸学院大学 准教授 理学療法士)、野沢由紀子氏(信濃医療福祉センター 言語聴覚士)

## 子どもの力を引き出す大人に

長良医療センター 言語聴覚士 渡部舞子

11月1日と2日の2日間に渡った小児勉強会「INRAL 初級ワークショップ」に参加しました。

私がインリアル・アプローチに出会ったのは、大学4年生の時でした。当時、私は所属していた大学の附属養護学校(現在の特別支援学校)で行っていた幼児教室で卒業論文の研究も兼ね、自閉症の子どもさんに関わらせて頂いていました。より効果的な関わりを探るべく、担当教官には教えられたうちの一冊の文献が、勉強会の中でも紹介された「インリアル・アプローチ」でした。

子どもにのみ焦点をあてるのではなく、関わる大人の関わり方を考えるアプローチ方法に、「大人の関わり方ひとつで子どもは変わるんだ!!」と大変衝撃を受け、惚れ込んでしまいました。なので、案内が

出る前にこの勉強会を開催するを聞いてからずっと楽しみにしていました。

これまで、子どもと関わる時には、「この子は今何を思っているんだろう?何を伝えようとしてくれているんだろう?」といつも考え、インリアル・アプローチの基本姿勢や言語心理学的技法を意識していましたし、親御さんへのアドバイスの中にも取り入れていました。

しかし、講義の中で、障がいに合わせたことばがけが必要であることを知り、私のことばがけはどんな子にも同じであったことに気づくことができました。また、障がい児は失敗体験をたくさん積んでしまうために定型発達児以上にたくさん成功体験を促すこと、子どもの意図をどう解釈するかでその子の成功体験となるか否かの分かれ道となることに気づかされ、一瞬で終わってしまう「ことばのキャッチボール」の中で子どもの意図を読み取る難しさを改めて実感しました。

ことばを教えるだけでなく、「伝える」喜び、「共感しあう」楽しさの体験がことばの発達を支える。これまでの自分の関わり方を見直すことができ、石井先生が講義の中で言われたように「コミュニケーションの意欲を支え、子どもの力を引き出す大人になろう」と強く感じた2日間でした。

(平成20年11月1日、2日開催、64名参加  
講師：里見恵子氏(大阪府立大学准教授 言語聴覚士)

河内清美氏(大阪府立生野聴覚支援学校

指導教諭、言語聴覚士)

石井喜代香氏(神戸総合医療専門学校

言語聴覚士)

## 年会費納入について

納入金額：平成21年度分会費 1,000円

納入期限：9月末日まで(前年未納者は2,000円)

振込先：郵便振替 加入者 岐阜県嚙下障害研究会

口座番号 00890-3-114142

\*同封の郵便振込用紙をご利用ください。

\*通信欄に「21年度分会費」とご記入願います。

\*“振替用紙の控え”をもって 会員証とします。

\*2年間会費を滞納すると、自動退会となります。

(注)未入会者は 入会申込み手続きが別途必要!

問い合わせ：木沢記念病院ST室 研究会事務局まで

## 平成21年度 研修会 年間スケジュール

### 成人部門

都合により、日時・場所・内容・講師などを変更する場合があります！

#### ●摂食・嚥下リハ 初級課程 講習会

日時：平成21年8月23日(日) 10時～15時半  
会場：木沢記念病院 中部療護センター 3階 討議室  
(美濃加茂市古井町)

参加費：会員 1,000円 非会員 3,000円

#### ■第1回勉強会

日時：平成21年10月4日(日) 9時半～16時半  
会場：木沢記念病院 中部療護センター 3階 討議室  
内容：「摂食・嚥下障害に対する

理学療法的アプローチ ―講演と実技―

講師：富田昌夫氏(藤田保健衛生大学教授 理学療法士)

参加費：会員 3,000円 非会員 4,000円

#### ■第2回勉強会

日時：平成21年11月28日(土) 14時～17時  
29日(日) 9時半～16時半  
会場：木沢記念病院 中部療護センター 3階 討議室  
内容：「呼吸器の解剖生理、呼吸リハビリ、頸部聴診」

講師：井上登太氏(NPOグリーンタウン呼吸嚥下研究  
グループ 理事長 医師)

鈴木典子氏(同上 理学療法士)

大宿茂氏(兵庫県立淡路病院 言語聴覚士)

参加費：会員 4,000円 非会員 5,000円

#### ■第3回勉強会

日時：未定  
会場：木沢記念病院 中部療護センター 3階 討議室  
内容：「口腔機能向上の実際」講師：調整中

参加費：会員 1,000円 非会員 2,000円

#### ■第4回勉強会

日時：平成20年3月6日(土) 14時～16時半  
会場：木沢記念病院 中部療護センター 3階 討議室  
内容：「症例検討会」と講演

参加費：会員 500円 非会員 1,000円

### 小児部門

#### ■第1回勉強会(通算第26回)

日時：平成21年5月16日(土) 13時～17時  
内容：「小児の口腔ケア―基礎と実際―」(演習あり)

講師：栗木みゆき氏、他 多治見口腔ケアグループメンバー

会場：木沢記念病院 中部療護センター 3階 討議室

#### ■第2回勉強会(通算第27回)

日時：平成21年6月27日(土) 7時  
28日(日) 9時～12時

内容：「小児療育における姿勢保持の基礎と実際  
～姿勢を通じた日常生活支援を考える～」

講師：辻清張氏(福井こども療育センター 理学療法士)

会場：希望が丘学園

#### ■第3回勉強会(通算第28回)

日時：平成21年10月頃の土曜日または日曜日  
内容：「症例検討会 2例(幼児・学齡児、各1例)  
助言者：野沢由紀子氏(信濃医療福祉センター ST)  
定員：50名 会場：各務原市福祉の里(予定)

#### ■第4回勉強会(通算第29回)

日時：平成22年3月頃の土曜日  
内容：「脳性麻痺児の言語コミュニケーション支援」  
講師：調整中 定員：50名 会場：希望が丘学園(予定)

#### ■平成22年度 第1回勉強会(通算第30回)

日時：平成22年5月頃の土曜日または日曜日  
内容：「口腔機能と栄養・調理・食形態」(調理実習あり)  
講師：調整中 定員：50名 会場：未定

### 第12回 学術講演会・総会 第1報

日時：平成21年11月22日(日) 10時～16時

会場：高山市民文化会館内 高山市公民館

内容：午前 講演「子どもの摂食・嚥下障害

～その理解と援助の実際～」仮題

講師：尾本和彦氏

(心身障害児総合医療療育センター

歯科医長・歯科医師)

昼時 嚥下障害補助食品&口腔ケア用品の展示

嚥下障害関連書籍の販売

歯科衛生士による口腔ケア体験コーナー

午後 講演「脳神経のフィジカルアセスメント、

嚥下と呼吸の協調、リスク管理」仮題

講師：鎌倉やよい氏

(愛知県立大学看護学部 学部長・教授)

参加費：会員 2,000円 非会員 3,000円

―編集後記― モグモグ通信の発行が大変遅くなり  
申し訳ございません。深くお詫び申し上げます。